

平成29年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 八枝 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	11.0	74	5.1	57	11.6	77	4.9	44
全国	11.2	75	5.2	58	11.8	79	5.1	46

(2) 本校の学力調査結果の分析

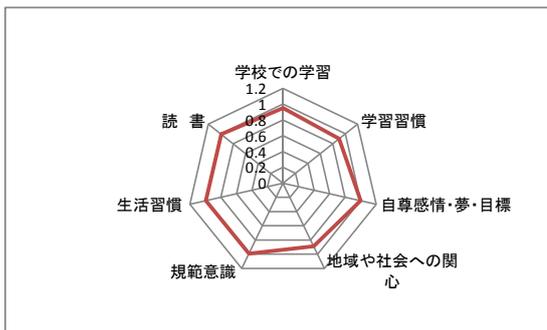
国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に全国平均を上回っている。特に、目的や意図に応じ、内容を明確にして書く、手紙の構成を理解して書くなど、書くことへの理解が大きい。 ・一方「話し合いの様子から中心を捉える」力には課題がある。 	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	目的に応じて、文章の中から必要な情報を見つけて読む問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	漢字の書き取り問題では、無解答率が高かった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に全国平均を上回っている。特に、自らの目的や意図で話したり、書いたりする力は、全国・県を大きく上回っている。 ・一方「(相手の話から)目的や意図を読み取る」力には課題がある。 	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話す問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える問題は正答率が低かった。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に全国平均を大きく上回っている。特に、図形の関係性や構成については高い正答率を得られた。 ・一方「任意単位による測定」「二次元表の理解」には課題がある。 	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	正五角形は五つの合同な二等辺三角形で構成できることを理解しているかを問う問題では、正答率が大変高かった。	
	努力が必要な問題	資料を用いて、二次元表の合計欄に入る数を求める問題は正答率が低く、無解答率が高かった。	

算数B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に全国平均を大きく上回っている。特に、仮の平均を用いて考える問題については高い正答率を得られた。 ・一方「表やグラフの理解」については課題がある。 	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を規準とした場合の平均の求め方を記述する問題は正答率が全国平均を大きく上回った。	
	努力が必要な問題	割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶ問題は正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」「自分には、よいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問では肯定的回答が高く、自己肯定感・自尊感情をもつことができていると考えられる。 ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」という質問では、肯定的回答が全国平均よりも低い。具体的方策をもって授業改善をしていかなければならない。 ・「地域の行事に参加しているか」「授業や課外活動で地域のことを調べたり地域の人と関わったりする機会があったと思うか」という質問では、肯定的回答が低かった。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

・『わかる授業』づくり5つのポイントの、特に「4. 1単位時間の中に『話し合う活動』と『書く活動』を意識するよう、「授業改善シート」を日常的に活用し、授業力の向上を図る。
 ・どの教科等においても話し合い活動を位置付けることを全職員が共通理解し、主体的で対話的な授業展開ができるよう工夫していく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・テレビゲームをする時間、スマホなどでネットに触れる時間が全国よりも多い。学級レベルでの指導からスタートし、保護者へも懇談会やプリント等で周知していき、学校と保護者が連携を取り合いながら子どもを育てていくようにする。
 ・地域との関わりが希薄になっていくことがないよう、道徳科授業において「北九州市郷土資料」を用いた授業を増やしたり、各教科の年間指導計画を見直し、地域施設や地域人材を活用できる場面を再設定していったりするよう努める。